

# 「多様な症状」を生じた症例の診療の実際 — 本日の事例概要 —

資料 1 - 1

様々な契機で慢性の疼痛や運動の障害、各種の神経症状を呈し、日常生活に支障を来して岡山大学病院を受診した3症例について、症状、経過、診療方針、転帰等の報告を行った。

## 【3症例の方の概要】

- ・ 発症から受診までの期間 : 半年から1年。複数の医療機関で相談歴あり
- ・ 事例概要
  - A) 全身痛、歩行障害、視力障害、睡眠の質の低下などがあり、登校できない
  - B) 全身痛、食欲低下、易疲労感、集中力の低下などがあり、登校できない
  - C) 全身痛、下痢や便秘、光や匂いへの過敏さ、睡眠の質の低下などがあり、登校できない
- ・ 診断までの経過: 複数の診療科での診察や検査を経て、他の器質的疾患を除外することで診断「心因性」という評価については、断定・同意が難しい症例もあり「機能性」として対応

## \* 治療方針: 心身両面からのアプローチ(心身医学的アプローチ)

- ・ 患者、家族への十分な説明と信頼関係の構築する
- ・ 原因を追究するのではなく、「症状があってもできることをさがす」という認知行動療法的なアプローチを開始  
生活リズムの改善・体を動かすことを通して筋力低下を予防することなどが重要なことを説明し、日常生活の中でできる活動を少しずつ増やしていく。達成感と共に、周囲の肯定より自己評価の改善を図る
- ・ 家族や学校に協力を依頼し、周囲が連携して支援する体制を構築する
- ・ 初診後の転帰: 治療期間は約1~5年、3例とも体調に合わせた登校が可能となったが、症状は持続しており軽快と判断でない

# 身体症状症および関連症群

(DSM-5の診断基準)

---

身体 症状 症お よび 関連 症群	身体症状症 300.82 (F45.1 ) (somatic symptom disorder)
	変換症/転換性障害 (機能性神経症状症) 300.11 (F44.4~7) (conversion disorder)
	その他、病気不安症、作為症/虚偽性障害、他 の医学的疾患に影響する心理的要因など

---

# 身体症状症

## (Somatic Symptom Disorder)

A. 苦しいあるいは日常生活の著しい妨げとなっている一つまたはそれ以上の身体症状

B. 次の少なくとも一つによって明らかにされる身体症状または健康上の関心に関連する過剰な考え・感情あるいは行動

1. 症状の重症度に関する不適切で持続的な考え
2. 健康や症状に関する持続的な強度の不安
3. 過度の時間と労力をこのような症状や健康上の関心に費やす

C. どの身体症状も連続性に存在するわけではないが、身体症状がでる状況は持続性である（典型的には6ヶ月以上）

## ▶ 該当すれば特定せよ

- 疼痛が主症状のもの（従来の疼痛性障害）：この特定用語は身体症状が主に痛みである人についてである
- 持続性：持続的な経過が、重篤な症状、著しい機能障害、および長期に渡る持続期間（6ヶ月以上）によって特徴づけられる
- 重症度：
  - 軽度：基準Bのうち1つのみを満たす
  - 中等度：基準Bのうち2つ以上を満たす
  - 重度：基準Bが2つ以上を満たし、かつ複数の身体的愁訴（または1つの非常に重度な身体症状）が存在する

# 変換症/転換性障害（機能的神経症状症）

(Conversion disorder/Functional Neurological Symptom disorders)

- A.ひとつまたはそれ以上の随意運動、または感覚機能の変化の症状
- B.その症状と、認められる神経疾患または医学的疾患とが適合しないことを裏づける臨床的所見がある
- C.その症状または欠損は、他の医学的疾患や精神疾患ではうまく説明されない
- D.その症状または欠損は、臨床的に意味のある苦痛、または社会的、職業的、または他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている、または医学的な評価が必要である

## ▶ 症状の型を特定せよ

F44.4 : 脱力または麻痺を伴う

F44.4 : 異常運動を伴う

(例：振戦、ジストニア運動、ミオクローヌス、歩行障害)

F44.4 : 嚥下症状を伴う

F44.4 : 発語症状を伴う

(例：失声症、ろれつ不良など)

F44.5 : 発作またはけいれんを伴う

F44.6 : 知覚麻痺または感覚脱失を伴う

F44.6 : 特別な感覚症状を伴う

(例：視覚、嗅覚、聴覚の障害)

F44.7 : 混合症状を伴う

# 線維筋痛症 Fibromyalgia

アメリカリウマチ学会の1990年の診断基準より

1. 全身的な慢性（3ヶ月以上）の疼痛
2. 指による触診で、少なくとも特徴的身体の部位  
18ヶ所のうち11ヶ所以上に圧痛点を確認する

後頭部：後頭下の筋付着部(2.3)

肩甲部(僧帽筋部)：上縁の中央点(4.5)

棘上筋部：肩甲骨棘の内側縁の上部(6.7)

殿筋部：殿部の上部外側の四半部(8.9)

下位頸部：C5～C7の横突間の前面(10.11)

第2肋骨部：第2肋軟骨連結部(12.13)

外側上顆：上顆から2cm遠位側(14.15)

大転子部：転子隆起の後部(18.19)

膝関節部：関節境界線から近位側の内側脂肪体(20.21)

\* 1、16、17は陰性となる圧痛点（対照用評価）

